



RI会長	田中 作次
第2790地区ガバナー	得居 仁
第5分区ガバナー補佐	古市 一雄
第5分区幹事	島田 誠一
第2790地区地区委員 ロータリー財団委員会 勝浦RC	関 一憲
新世代奉仕委員会 鴨川RC	羽鳥 鋭一
勝浦ロータリークラブ 会 長	古川 範男
幹 事	中村 満
クラブ会報委員長	小林 悠紀
副委員長	渡邊 ヒロ子
委 員	渡邊 昌俊
	関 一憲

◆8月31日(金)のプログラム

ゲスト卓話

読売新聞記者 羽田和政氏

『震災で思い出すこと』

◆9月の例会予定

【新世代のための月間】

・9月 7日(金)

クラブフォーラム

新世代育成委員会 渡邊昌俊委員長

・9月14日(金) 祭礼の為休会

・9月21日(金) ゲスト卓話

・9月28日(金) ゲスト卓話
(医)勝浦整形外科クリニック
院長 有馬三郎先生

●会長挨拶 古川範男会長



北方領土へのロシアの大統領訪問、韓国大統領の竹島訪問、そして尖閣列島を巡る動きなど、最近の日本の外交をめぐる出来事には皆さんさぞやカリカリ、イライラしていることと思います。これらの問題の根底には、日本の外交、外務省の怠慢、無作為、無能があると思います。ひとことで言えば、それは「問題の先送り」です。今日はこの問題の根本的精神構造とも言える「優等生は先送りする」という法則について話します。

戦後日本の教育は、偏差値教育といわれるように、知識を詰め込み、「いかに人よりも良い成績を得るか」に力を注いできたといっても過言ではありません。幼稚園から大学まで、テスト、テストの連続です。では一体、テストで良い成績を獲るにはどうしたらいいか。

学習塾や有名進学校では多分こう教えているでしょう。「テストではまず名前を書いたら鉛筆を置き、5分間は問題全体をじっくり見渡す。そして易しい問題から解く」。そうです。これは試験で良い結果を出す常套手段です。性格が素直な人だと、よく1番から順番に問題を解いていきますが、これは愚の骨頂、アホです。大学入試の場合、普通1、2題は難問が用意されています。素直に1番から問題を解いていくと、もしも最初に難問が控えていた場合には、これに引っかかってしまい、制限時間内に外の問題を解く余裕がなくなってしまう虞(おそれ)もあります。意地悪な試験問題担当者なら、最初に難問を持ってくるかも知れません。ですから、易しい問題から解いて、残った時間でゆっくり難問に挑戦するのが王道と言われる訳です。こうすれば大体70点は取れる。東大でも京大でもどこでも入れるわけです。

しかし、ここに問題があります。つまり、この方法は「問題を先送り」していることに他ならないからです。いい成績を獲って、卒業して、官僚になる。まあ、東大法学部の最も優秀といわれる人々、試験の達人たちは、優秀な上の方から順番に1、2割が霞ヶ関に就職するといわれています。彼らの精神構造は御想像の通り、難問に直面すると「先送り」することになる訳です。

問題を先送りするとどうなるか。最初は小さなことでも、次第に処理が難しくなってきます。竹島問題がよい例です。1952年に当時の李承晩大統領が勝手に平和線(いわゆる李承晩ライン)を引いた時に国際社会に訴えるなど、きちんと処理しておけば、その後の韓国の実効支配を許すこともなかったでしょう。

事ほど左様に、「問題の先送り」は、特に外交面などでは、百害あって一利なしです。問題は小さいうちに的確に処理しなくてはなりません。殊にロータリアンに望まれるのは、閉塞感が漂う今日、超我の精神で間髪をいれずに奉仕に邁進することだと思います。

●幹事報告 中村満幹事

1. 国際ロータリー日本事務局より9月のロータリーレートは 1ドル=80円と連絡が入りました。
2. 鋸南RCの網代孝会員(チャーターメンバー)が8月25日御逝去されました。合掌
勝浦RCでは弔電を送らせていただきました。
3. 9月からの例会は平常どおり東急ハーヴェストクラブ勝浦で行います。

●ニコニコ BOX

○配偶者誕生日

◆西川佳璋 君



こんにちは。先月は自分の誕生日祝いを申し上げましたが、今日はひと月遅れで家内の誕生日です。

家内からいただいた腎臓を大切に、毎日を過ごしてまいりたいと思います。ありがとうございました。

○自主申告

◆関一憲 君



今日は皆さんに感謝を伝えたいと思います。24歳の

時に父が倒れ、会社を継ぐことになりました。どこに向かっていいか分からず、牧野さんには反対されながら勝浦RCに入れさせて頂きました。本当に皆さん素敵な人たちに囲まれ御指導頂きまして、早いもので私が経営者になって19年、何とかここまで商売をやってくることが出来ております。今月号の『整備戦略』という業界紙に、全国の中で何社か選ばれまして載せて頂くところまでなりました。今後とも引き続き御指導の程お願い致します。

◆牧野利美 君



当時、私がちょうど会員増強委員長をやっており覚三郎さんが関さんをターゲットにしたのですが、お聞きになった通り当時の関さんの年齢からいって勝浦青年会議所の方がいいよ。かわいそうだよと言ったのですが、無理に入れさせたという事があったので、その時の事を今思いました。関さんに入って頂いて新しく活性化された事をうれしく思っております。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

●ゲスト卓和

『震災で思い出すこと』

読売新聞館山通信部記者 羽田和政氏



昨年(2011年)3月、日本史上、稀な痛ましい天災が起きた。その東日本大震災は徐々に復興しつつあるといわれるが、被災者の生活や心に負った傷は決して元には戻らない。災害や、それに伴って起きた原発事故の検証は研究者やメディアの王道に

譲るとして、その東日本大震災で思い起こした二つの事柄について、紹介したい。

地震でまず思い出す人物として挙げたいのが、大リーグの名選手だったロベルト・クレメンテである。ピッツバーグ・パイレーツの右翼手で、4度の首位打者とその強肩ぶりから「ライフルアーム」「パーフェクトプレーヤー」と言われた。1972年9月30日、彼はそのシーズンの最終試合で通算3000本安打を放った。ファンも当の本人もその数字はキャリアの於いて通過点に過ぎないと思っていた。しかし、最後の試合できりのいい数字をプレゼントしてくれた神様は、彼にその後1本の安打すら上乘せさせてはくれなかった。

その年の暮れ、中米ニカラグアで大地震が起き、多くの犠牲者が出た。同じ中米のプエルトリコ出身だった彼は居ても立ってもいられず支援物資を送り続けたが、どこかで中間搾取されるのか人々には届かなかった。それならと、本人自ら飛行機をチャーターし、物資を積み込んで被災地に向け飛び立った。しかし、そのまま機は海中に墜落。遺体はついに揚がらなかった。

大リーグ機構は年明け早々、引退後あるいは死後5年経過しないと資格がない「栄誉の殿堂」入りを決めた。その後、人道的行為が評価されるコミッショナー賞をロベルト・クレメンテ賞に改称、今やMVPを超える名誉として、選手の目標になっている。当時、弱小進学校の高校球児だった私は、彼の行為と事故の顛末に驚くと共に、スタンダードだと思っていた長嶋茂雄とは別次元の選手の存在を知り、尊敬の念を抱いた。ビデオでプレーぶりを追体験し、彼がプレーした地を訪れて遺徳をしのんだ。「こんな野球選手がいたことを忘れてはならない」と。

もう一つは、大震災を見ずに2010年4月に亡くなった井上ひさしさんの小説「吉里吉里人」。彼が遺した数多の作品の中で最も好きなものでもある。東北本線沿いの岩手県の小さな村が、ある日突然独立宣言する。そして結局は元の日本国に戻るまで、たった1日半の騒動を、井上さんは原稿用紙2500枚も費やして描いた。

今回の震災で、町長も亡くなるなど大きな被害を被った同県大槌町。その町内に実際に吉里吉里という地名がある。沖合に浮かぶ蓬莱島は彼が原作したNHKの人形劇「ひよっこりひょうたん島」のモデルでもある。ナショナルリズムとローカリズムの在り方を同時に問える作品で、SFとも呼べる突拍子のない展開の中に、国と地方の関係を浮かび上がらせた名著だ。21世紀の今こそ、むしろ読み直したいし、お薦めする。



刊行当時、独立ブームが起き、国内でどの地域が日本から独立可能かということが、大学や金融系総研、マスコミなどでかまびすしく、しかも真面目に論議された。千葉県は全国トップクラスの独立可能地域だったことを覚えている。ほかには北海道や佐渡島などだった。千葉は北の作物も南の作物も、寒流の魚も暖流の魚もとれる豊かな地域。人口も工業力も国際空港も国際港もある。

自分の住む地域の豊かさを改めて知ると共に、井上さんが震災のあらかしや、今の国内の混迷ぶりを見たら何と言うだろう。分厚い本を手にも思わざるを得なかった。

出席報告 8月31日(金)
出席委員会 前田安彦委員長



会員	出席	MU	欠席	出席率
35名	26名	7名	2名	94.29%